

A A A

ccounting,
rithmetic &
rt Journal



The **P**ACIOLI **S**OCIETY **J**APAN

2002.11

イタリア・ルネサンスの商人に宛てた贈物

専修大学はルカ・パチョーリ著『スママ』初版（1494年）を購入したことの記念として特別展「イタリア・ルネサンスの商人に宛てた贈物」を平成14年6月11日から7月11日の期間に渡り、専修大学図書館のある生田校舎で開催しました。『スママ』初版本はもとより、所蔵の関連古書、中世の会計資料、陶製文書などの珍しい資料が展示されました。

7月6日には図書館のある120年記念館にて日本パチョーリ協会第15回フォーラムが開かれ、雪嶋宏一先生(早稲田大学)の「パチョーリ『スママ』の書誌学的位置づけ」の講演があり、30名程の参加者が熱心に聴講されました。その後同記念館5階の「キャビン」にて懇親会が催されました。

なお、『スママ』初版本は世界に100冊程度残存しているといわれています。そのうち、日本では、大阪学院大学、大阪商業大学、神奈川大学、久留米大学、慶應義塾大学、神戸大学、専修大学、日本大学商学部、広島修道大学、早稲田大学の10の図書館に所蔵されたこととなります。

第16回フォーラム予告

美術史を専攻される岡部昌幸先生(帝京大学)をお迎えして、(仮題)「パチョーリをめぐる芸術家——レオナルド・ダ・ビンチ、ピエロ・デッラ・フランチェスカ、レオン・バティスタ・アルベルティ——」というテーマのご講演を予定しています。

時：平成15年1月11日(土)午後2時より

所：茗溪会館(丸の内線 茗荷谷駅 下車2分)

最近5回分のフォーラム 講演テーマ

第14回 茂木虎雄「シモン・スティヒンの商人簿記論の構造と勘定学説史の展開」

第13回 森尾総夫「パチョーリ、ピエロ、数学」

第12回 林 信夫「ローマにおける『銀行学』」

第11回 三浦伸夫「パチョーリと数学」

第10回 斎藤寛海「中世後期のイタリア商業」



パチョーリ『スママ』の書誌学的位置付け

雪 嶋 宏 一 (早稲田大学図書館 司書)

2002年7月6日

日本パチョーリ協会第15回フォーラム
専修大学生田キャンパス 120年記念館

1. インキュナブラとは

活版印刷術はマインツのグーテンベルクによって15世紀中葉に発明され、ヨーロッパの各地に伝播し、技術的改良が行われ発展を遂げ、近代文明の原動力として今日まで影響を与えている。ヨーロッパで15世紀末(1500年末)までに活版印刷された印刷物をインキュナブラ(インクナブラ、インキュナビュラ)と呼んで書誌学上特別な扱いをしている。「インキュナブラ」とは「揺籠の中にあるような幼稚な状態のもの」という意味であり、17世紀に至ってはじめて書物史の文脈で使用されたラテン語の言葉である。インキュナブラは活版印刷が開始された第1世紀の印刷物であり、印刷術発展を物語る資料であるため、早くから書誌学の研究対象となってきた。

活版印刷術は、15世紀末までに北はスウェーデンから南はシチリア、西はポルトガルから東はコンスタンティノーブルに至るヨーロッパの地域に伝播して、250都市以上でのべ1100以上の印刷所が開設され、推定4万版が刊行された。平均印刷部数を500部と見積もると、最大で2000万部が印刷されたと考えられている。現存するインキュナブラは約3万版であり、現存部数については正確な数字が得られていない。これらの数は中世千年間に制作された写本の数を優にうまわり、印刷本が情報メディアの主流になったことを証明している。

2. 印刷術のイタリアへの伝播



グーテンベルクの発明から10年ほどで印刷術はイタリアに伝播した。イタリアにこの技術をもたらしたのはヨハネス・フストとペーター・シェーファーの工房にいた印刷職人コンラート・シュヴァインハイムとアルノルト・パンナルツという2人のドイツ人であった。彼等は枢機卿トルケマダの援助でローマの東50kmにあるスビアコのベネディクト修道会のサンタ・スコラスティカ修道院に1464年頃に印刷工房を開設して、翌年にキケロ『雄弁論』、ラクタンティウス『著作集』の2書、1467年にアウグスティヌス『神の

国』を印行した。1467年、ローマにウルリヒ・ハーンがやはりトルケマダの援助で印刷工房を開き、トルケマダ『瞑想』を印行した。この書はイタリア最初の挿画本でもある。シュヴァインハイムらもスビアコから印刷所をローマに移動してキケロなどを印行した。

そして、1469年にはヴェネツィア最初の印刷所がヨハン・フォン・シュパイアーによって

開かれ、翌年にはフランス人のニコラ・ジャンソンがここに工房をもち、ヴェネツィアをヨーロッパ最大の印刷センターに発展させる基礎を築いた。1470年以降イタリア各地に続々と印刷所が設立され、15世紀末までに80都市に印刷所が作られ、ヨーロッパ最大の印刷業地域となった。

3. ヴェネツィアにおける印刷業の発展

ヴェネツィアは当時ヨーロッパ最大の通商地でヨーロッパと東方を結ぶ国際都市であった。そこに印刷業が発展した理由は、裕福な貴族社会から出版に必要な資金が得やすいこと、商業の発展により印刷物の販路を見つけやすいことなどであろう。しかし、パリと違ってヴェネツィアには大学がなく学問の中心地ではなかった。学問の中心はパドヴァにあり、法学や医学などを学びにヨーロッパ各地から留学生が訪れ、書物の需要が高まっていた。

ヴェネツィアでは15世紀末までにのべ150以上の印刷所が活動し約4000版を生産した。これはインクナブラ全体の1割を占めている。ヴェネツィア印刷書は他のどの都市のものよりも多数現存していることから、版数は1割でも印刷部数の割合はさらに大きいことは明らかであろう。現在筆者が調査している日本国内所蔵のインクナブラでもヴェネツィア刊行書がおそらく1/4以上を占めており、しかもパチョーリは10部、ユークリッド初版は11部、アリストテレス著作集ギリシア語初版ですら3部も所蔵されており、コピー数の割合はさらに高いことは明かである。

15世紀のヴェネツィア印刷業はニコラ・ジャンソンが亡くなった1480年を境にそれ以前を前期、それ以後1500年までを後期に区分されている。前期を代表する印刷業者はヴェネツィアの印刷創業者ヨハン・フォン・シュパイアーの兄弟ヴィンデルンとニコラ・ジャンソンである。特に、ジャンソンは端正なローマン体活字を製作してラテン古典を次々と上梓したため人文主義者から好評を博した。前期から後期にかけて活躍した印刷業者としてはアウクスブルク出身のエアハルト・ラートドルトらのグループがあり、タイトルページを初めて作り、木版イニシャルやボーダーを取り入れるなど印刷本の形式を確立するのに大きく貢献した。

後期では、グレゴリス兄弟、アンドレア・トッレザーニ、アルドゥス・マヌティウス、ルカントニオ・ジュンタらの名前が挙げられる。グレゴリス兄弟は神学書、法律書、ラテン古典、医学書など広範な分野の書物を精力的に刊行した。トッレザーニはジャンソンの活字を継承しながらも法律書やパドヴァ大学の教科書などを印行して成功し、アルドゥスの庇護者としてヴェネツィア印刷業の発展を支えた。そして、アルドゥスはギリシア古典の最良の版を印行するため、フランチェスコ・グリッフォに活字を制作させ、校訂者にマルクス・

ムスルスを用いて古典文献を次々と印行してルネサンスの文藝復興をリードした。彼は1502年に自宅に「新アカデミー」を創立して内外の学者を集めて古典文献の校訂作業を進めた。そこにはエラスムスが滞在し、パチョーリもおそらく関係していたはずである。

4. パガニーノ・デイ・パガニーニ

このような有能な印刷業者を輩出したヴェネツィアにはその他にもマイナーな業者が多数存在した。パチョーリ『スムマ』を印行したパガニーノ・デイ・パガニーニもその一人であった。彼は、ジョルジョ・アッリヴァーベネ、ベルナルド・ベナーリとともに1484年頃に印刷所を設立し、1487年に独立して自身の印刷所を構えた。アッリヴァーベネは法律書や神学書を得意としていた。彼の上梓した書物1500年までに47版ほど



を数えるが、『スママ』および『聖書』以外は比較的小部数の印刷であったことが現存部数の極めて少ないことから明らかとなる。『スママ』は現存部数がゆうに百部を超えることから（日本国内に10部）、パガニーノの印行書の中では特別なものであったはずである。その出版はウルビーノ公グイドバルドに支えられ、パチョーリ自身もヴェネツィア政府からの10年間の印刷特認権を取付けた。パガニーノはそれまで木版挿絵本を印刷したことがなかったが、本書にボーダー、幾何学的ダイアグラム、パチョーリを描くヒストリエイテド・イニシャルL、数字を示すフィンガーサインの図などを多数挿入した。このような試みは1492年9月に印刷特認権をヴェネツィア政府に申請し、『スママ』の印刷を挟んで1495年4月に完成したフォリオ判木版挿絵入り『聖書』の成功に結実した。

『スママ』の成功によってパガニーノはパチョーリとの関係を深めることができた。周知の『スママ』の異版問題についてはまだはっきりとした結論を下せないが、初版初刷と2刷、3刷が生じた原因は印刷工程と在庫の問題が関係していると思われる。また、パチョーリ死後に第2版まで刊行したことは本書の印刷特認権の期限と関係するはずであるが、さらに本書がよく売れたことを物語っている。

パガニーノはパチョーリの主著となる『神聖比例』と『ユークリッド』の印刷を1509年に息子アレッサンドロと共同で行った。特に『神聖比例』には精巧な木版画が多数挿入されて際立っている。この時、印刷所は父子の共同経営となっていた。パガニーノの晩年はあまりはっきりしていない。1517年にブレッチャ近郊のサロに印刷所を移し、さらに1519年にトスコラーノに移転して、そこで『スママ』第2版を1523年に印刷した。この点については以前論じたことがあるが、少なくとも活字はアレッサンドロが当時使用していたもので、木版も新たに作り直されている。第2版は初版初刷りにもとづいて版を組んでいる。そして、縮約語が少なくなって初版よりはるかに読みやすくなり、16世紀らしい印刷本となっている。年老いたパガニーノが一人で行った仕事であろうか。アレッサンドロが相当に協力したものと推定している。

アレッサンドロはイタリック体活字を製作してイタリア古典を刊行し、同時にヴェネツィアでこのイタリック体活字でラテン古典の印刷を進めた。さらに、当時禁書に指定されていたコーランを史上初めてアラビア語で印刷した。近年、ヴェネツィアのサン・ミケーレ島にあるフランチェスコ修道会の修道院で発見されて話題になった。アレッサンドロ晩年の1537年頃の印刷と考えられている。

5. 15世紀イタリアにおける数学書の刊行

パチョーリは当時すでにイタリアで知られた数学教師であり、ヴェネツィアで日常行なわれていた商人の会計処理をよく知る人物であった。『スママ』は当時イタリアの大学で教えられていた数学全書であるが、決してパチョーリのオリジナルな著作とはいえない。

15世紀にイタリアで普及していた算術はピエトロ・ボルゴ『商業算術』やジョルジョ・キアリーニ『諸国の商業と習慣を論じる書』、古代の算術を伝えるボエティウス『算術提要』

などであった。また、幾何学では13世紀にヨハネス・カンパヌスによって校訂されたユークリッド『幾何学原論』ラテン語版が1482年にラートドルトによって刊行された。インクynaブラの中で最初の数学・幾何学の集成は古代の哲学者ボエティウスの著作集であろう。ヴェネツィアで1487年に初版が刊行されたが現存していない。第2版は1491-92年にグレゴリス兄弟によって印行された2巻本であり、上巻に音楽論を含む算術・幾何学論がまとめられている。パチョーリ『スママ』はその次に位置するが、15世紀の同時代人がまとめた著作としては最初のものということができよう。つまり、ヴェネツィアでは初期の

重要な数学書が刊行されていたことになり、ヴェネツィアは科学書の出版についても注目されてよいのである。

6. パチョーリの幾何学

パチョーリは故郷サンセポルクロでピエロ・デッラ・フランチェスカに師事したのちヴェネツィアへ赴き、商人ロンピアンジの子弟のチューターをする傍ら、ドメニコ・ブラガーディノに算術と数学を学んだ。1470年にローマでレオン・バッティスタ・アルベルティを尋ね薫陶を受けたと思われる。アルベルティは遠近法を説くなどルネサンスを代表する人文主義者であった。パチョーリはローマを後にしてイタリア各地の大学で幾何学を教える学者となった。彼の幾何学はもちろんユークリッド幾何学である。彼が使用したテキストはヨハネス・カンパヌス編のラテン語版であり、パチョーリはその要約を『スママ』第2部に収録した。その後、ミラノのスフォルツァ家に滞在した際に『神聖比例』を執筆した。これは黄金比例と正多面体論を説いた書物であり、若き日にピエロ・デッラ・フランチェスカから学んだものであった。よく知られたパチョーリを描く肖像画の中に正多面体の模型が描かれており、幾何学者の関心を引いている。黄金比例はアルファベット文字のレタリングにも適用されて、当時のローマン体の縦横の比率を決めている。『神聖比例』はレオナルド・ダ・ヴィンチが描いたと推定されるレタリング図版を収録している。

また、その前年の1508年8月11日にヴェネツィアのリアルト橋近くのサン・バルトロメオ教会でパチョーリがユークリッド幾何学第5書を講義するというので聴衆が詰め掛けた。当時のヴェネツィア文化人を代表するアルドゥス「新アカデミー」の面々もこの講義に出席している。パチョーリ編『ユークリッド』の序文に出席者の名前が記されている。このユークリッド講義はパチョーリの学問的権威の一端であろう。

7. パチョーリ『スママ』の位置づけ

以上のように15世紀イタリアの印刷本刊行事情を検討すれば、パチョーリ『スママ』は例え過去の文献の要約からなる著作であっても、同時代の数学的知識を集成した最初の印刷本であったことになる。もちろん、複式簿記を最初に説いた印刷本という学問の歴史に

おける重要な意義については論をまたないが、そればかりでなく、数学全書としての歴史的意義を認めておかなければならないであろう。また、パチョーリがユークリッド幾何学を究めて幾何学者として人生を歩む契機となった書物であることも重要であろう。パチョーリはピエロ・デッラ・フランチェスカ、レオン・バッティスタ・アルベルティ、レオナルド・ダ・ヴィンチといった第一級の人文主義者と関係をもったルネサンス時代の数学者として記憶されるべきであろう。



参考文献

片岡泰彦編『我国パチョーリ簿記論の軌跡』 雄松堂書店 1998

雪嶋宏一編『本邦所在インキュナブラ目録』 雄松堂出版 1995

Lowry, Martin. The world of Aldus Manutius. Oxford, 1979.

Scholderer, Victor. 50 essays in 15th & 16th century bibliography. Amsterdam, 1966.

(2008年4月より早稲田大学教育・総合科学学術院准教授)

2003年シエナ会計史国際会議について

第三回会計史国際会議 (The third Accounting History International Conference) が2003年9月17日から19日にかけて、イタリア・シエナ大学にて開催されます。これはアメリカの会計史学会が主催してきた会計史家国際会議 (WCAH) とは異なり、オーストラリア・ニュージーランド会計史学会が中心になって主催してきたもので、第一回は1999年にメルボルンで、第二回は2001年に大阪で開催されました。

イタリア会計史学会主催

当番校 : Professor Angelo Riccaboni

Faculty of Economics

University of Siena

Piazza S.Francesco,17 53100 Siena Italy

Email:Riccaboni@unis.it

会議は報告論文を2003年3月1日期限で求めています。上記アドレスへご送付ください。なお、下記ウェブサイトで会議情報を入手できます。

http://www.deakin.edu.au/fac_buslaw/acc_fin/JOURNAL/journal.htm

or the University of Siena website :<http://www.unisi.it>

シエナはトスカーナ平原に立つ11世紀中頃からの商都でフィレンツェからバスで2時間、アレッツォもバスで1時間30分の交通の要所です。ローマから特急列車で2時間の地がアレッツォ、さらに1時間乗るとフィレンツェ(ミラノから特急で3時間)です。アレッツォはご存知の通り、ピエロ・デッラ・フランチェスカの大作「聖十字架物語」が描かれているサン・フランチェスコ教会があり、このピエロやルカ・パチョーリの生まれ故郷のサンセポルクロはバスで1時間の所にあります。

私ども日本パチョーリ協会はルカ・パチョーリの功績を偲び、会計史、数学史、美術史などに興味をもたれる方々の研究と親睦を目的とする会合です。興味のある方は、世話人にお声をかけてくださればご案内申し上げます。

世話人 : 岡本治雄・片岡泰彦・鈴木一道・佐々木重人・三代川正秀

The **IPACIOLI** **SOCIETY** **JAPAN**

日本パチョーリ協会 〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 拓殖大学 商学部 三代川 研究室 TEL.03-3955-8783
The Institute for Management and Accounting / Takushoku Univ. Miyokawa Office